脳腫瘍患者さんのための転院療養の手引き　（2023 年 2 月）

はじめに

脳腫瘍の手術の多くは高度な設備を持つ病院で行われます。そのような病院では入院期間や病床数が限られているために、全ての患者さんの要望通りに入院を継続することが困難なことがあります。また、国の医療政策としても、専門的治療を行う病院での入院期間の短縮や、療養型病院やリハビリテーション病院との役割分担が進められています。このため、入院治療がひと段落したときに直接自宅へ退院することが難しい場合は、患者さんの状況に応じて転院をお願いすることがあります。患者さんや家族の中には、「見放された」「慣れた病院を離れるのは寂しい」「麻痺や障害が残ったままなのに」などと不安を感じる方がおられますが、次の治療や療養へ進むという意味もありますので前向きにとらえてみて下さい。また、転院されても、症状が悪くなった時などに治療を必要とする場合は、主治医と連携して切れ目のない治療を行うことができます。不安なことは担当医や看護師、社会福祉士（ソーシャルワーカー）にあらかじめ相談しておきましょう。

1. 目的別の転院先

患者さんの病状や障害の程度に併せて様々な病院がそれぞれの特色を活かして役割分担を行っています。

1.　麻痺や筋力・体力低下などによりリハビリテーションが必要な時

- 回復期リハビリテーション病院（障害の程度にあわせて入院期間が変わります）
- 地域包括ケア病棟（主に在宅療養を目指している方が対象です）
- 介護老人保健施設（介護保険の申請が必要です）

2.　自宅での療養が困難な場合や、合併症に対する入院治療が必要な時

- 療養型病院（てんかんやせん妄・意識障害などに対する入院治療が必要な場合、長期療養が必要な場合など）
- 介護老人福祉施設（要介護 3 以上の方が対象です）
- グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など（主に高齢者向けの施設で脳腫瘍の患者さんが病院から転院することは稀です）

3.　緩和ケア病棟への入院

- 緩和ケア病棟では、抗がん剤などの積極的な治療や脳の病気の状態を評価する MRI 検査などは行わず、患者さんの意識や体、心の状態をみながら、苦痛症状を和らげるように治療を進めます。
- 緩和ケア病棟入院後も、在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションなどと連携し、緩和ケア病棟を退院して、在宅緩和ケアを受けることもできます。

転院先は、ソーシャルワーカーとの面談を通じて、患者さんや家族と相談して決めていきます。患者さんの意思や介護の程度、今後の見通しだけでなく、家族の経済的状況や近いとか遠いなど地理的状況、転院先の快適さなども重要なポイントになりますので、あらかじめ転院先を見学しておくとよいでしょう。

2. 転院の手続きと実際の移動

転院の手続きは、ソーシャルワーカー等により進められます。医療機関同士で患者さんの情報がやりとりされ、あらかじめ家族と面談をすることもあります。転院の際に必要なもの、転院療養先で必要になるものなどの情報もあらかじめ得られますので、ソーシャルワーカーや看護師と相談して準備をすすめてください。移動は家族と共に自家用車やその他交通機関にて転院される場合のほか、病状に応じて病院所有の救急車や介護タクシーなどの民間サービスの車両を使用されることもあります。ほとんどの手続きはソーシャルワーカーが代行しますので、遠慮せずに任せたら良いでしょう。

3. 転院後の療養

脳腫瘍の治療が継続される場合は、元の医療機関への外来通院、家族による病状の把握、医療者同士の情報交換などが重要となります。

脳腫瘍の治療の継続が困難で緩和ケア病棟などに転院された場合には、脳腫瘍に伴う身体的・精神的苦痛を緩和することが主たる目的となりますので、家族を含めて十分な支援を受けていただくことになります。

リハビリテーション病院などで麻痺などの障害が改善し、体力が回復したら再び退院となります。最近は、訪問看護などを受けながら自宅での在宅療養を選ばれる方も多くおられます。在宅療養に関しては、日本脳腫瘍学会のホームページから「脳腫瘍患者さんのための在宅療養の手引き」が利用できますので参考にしてください（https://www.jsn-o.com/）。

自宅での療養が困難な場合は、長期療養のための介護老人施設やグループホームなどが紹介されますので転院先のソーシャルワーカーと相談しましょう。

編集・発行
JSNO　特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会　https://www.jsn-o.com/
〒181-8611　東京都三鷹市新川 6－20－2　杏林大学医学部内
TEL：0422-47-5511 (内線 4546)　E-mail：jsno@jsn-o.com

作成者　日本脳腫瘍学会　脳腫瘍支持療法委員会
橋本直哉　天谷文昌　（京都府立医科大学）
副田明男　木戸地希世美　（東海中央病院）
成田善孝　（国立がん研究センター中央病院脳脊髄腫瘍科）

発行日　2023 年 2 月 1 日
本パンフレットの内容については、必ず医師・看護師など医療者の説明を聞いてご使用ください。
無断で本パンフレットの内容を複製・転載することを禁じます。